

渡島フロンティア人材育成事業

事業概要

世界遺産である「縄文文化」の継承を管内の地域課題とし、小・中・高の児童生徒の発達段階に応じ、探究的な学習を継続的に深め、ふるさとへの愛着を育むとともに、未来の社会を生き抜く資質・能力を身に付けた人材の育成を図る。

現状・課題

- 学習指導要領において、学校や地域の実態等に応じ、家庭や地域社会との連携及び協働を深めることが求められている。
- 小・中学校では総合的な学習の時間、高等学校では総合的な探究の時間において、探究的な学習の一層の充実が求められている。
- ▼ 小・中学校及び高等学校が連携し、地域の課題を踏まえて、主体的に探究的な学習に取り組むことができるよう、校種間連携を図った指導体制を整備する必要がある。
- ▼ 子どもたちの学びを支える外部機関や人材と連携を図ることができるよう、家庭や地域の協力も得ながら人的・物的な体制を整備する必要がある。

「縄文文化」に関する探究的な課題を設定した学習活動

道教委

- ①外部協力者や協力校による推進会議の実施
- ②外部協力者や協力校による実践交流会及び成果発表会の実施
- ③協力校の学習への支援及び管内への成果の普及

協力校

- ◆渡島管内の小・中学校、高等学校：各校種1校以上
- ①地域の教育資源を活用し、協力校が相互に連携を図った探究的な学習の実施
- ②推進会議への参加や、実践交流会及び成果発表会における実践発表
- ③実践事例の作成

協外力部者

- ◆大学等の学識経験者、NPO法人や民間企業等の職員、総合振興局環境生活課職員等
- ①協力校への学習支援
- ②推進会議への参加や、実践交流会及び成果発表会における助言



管内へ普及

期待される
効果

- 各地域における未来のまちづくりを担う「渡島フロンティア人材」育成
- 地学協働体制の構築